



## 2023年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年7月7日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 近藤 和行  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03(3518)1900  
 四半期報告書提出予定日 2023年7月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年8月期第3四半期の連結業績(2022年9月1日~2023年5月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第3四半期	9,113	0.4	1,616	△16.2	1,615	△16.3	1,100	△15.5
2022年8月期第3四半期	9,076	3.4	1,929	△2.8	1,929	△6.2	1,302	△7.4

(注) 包括利益 2023年8月期第3四半期 1,100百万円(△15.5%) 2022年8月期第3四半期 1,302百万円(△7.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第3四半期	61.79	61.71
2022年8月期第3四半期	73.17	73.09

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第3四半期	24,458	22,320	91.2
2022年8月期	24,241	21,569	88.9

(参考) 自己資本 2023年8月期第3四半期 22,295百万円 2022年8月期 21,544百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年8月期	—	0.00	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	—	—	26.00	26.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	2.0	1,810	△24.4	1,810	△24.4	1,255	△21.5	70.49

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年8月期3Q	17,809,632株	2022年8月期	17,804,032株
2023年8月期3Q	137株	2022年8月期	137株
2023年8月期3Q	17,807,936株	2022年8月期3Q	17,803,895株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(追加情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復が続くことが期待されています。ただし、金融市場の動きが不透明な中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクにもなっています。更に、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響を十分注視する必要があります。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の増加が大いに期待されています。なお、テレビメディア広告費は、1兆8,019億円（前年比98.0%）となり、そのうち当社を含む衛星放送メディア関連の広告費は、1,251億円（前年比103.5%）となっております。（「2022年 日本の広告費」(株)電通調べ）

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、コンテンツの価値最大化を目指しております。放送事業収入だけではなく、配信ビジネスやイベントの実施といった非放送分野の事業開発にも取り組みながら、4月改編に伴うコンテンツの充実をはじめ、効果的な広告宣伝、広報施策を実施いたしました。

#### [レギュラー番組]

4月改編では、『速報ニュース インサイドOUT』の開始時間を統一し、より視聴しやすい編成としました。また、『報道ライブ インサイドOUT』では話題になっている物事の立役者に焦点を当て、ドキュメンタリータッチで展開するミニコーナー「金曜日の志事人」の放送を5月より金曜日不定期で開始しております。

エンタメ・音楽ジャンルでは、『八代亜紀 いい歌いい話』が放送5年目に突入いたしました。『大人のバイク時間 MOTORISE』では第50回東京モーターサイクルショーに本年も出展し、ライブトークとファッションショーの実施・配信、オリジナルグッズの販売をいたしました。また、4月からはスタジオデザインを一新して放送しております。

紀行・教養ジャンルでは、多くの視聴者よりご要望をいただき、『太田和彦のふらり旅 新居酒屋百選』の毎週放送が復活いたしました。『ディスカバー傑作選』では、『名車再生!』、『魅惑のアクアリウム』等、様々なジャンルのコンテンツを厳選し、放送しております。

ドラマコンテンツでは、日本初放送のアジアドラマ『白色月光～愛した人の隠顔（かくれがお）～』、中国時代劇『高潔なあなた』、BS初放送で放送直後より多くの反響をいただいた『橋田壽賀子脚本ドラマ「心」』、ヨーロッパミステリー『バルタザール法医学者捜査ファイル シーズン3』等、人気コンテンツを多数放送いたしました。また、4月改編で新たに、火曜と木曜の18時から「ドラマアンソロジー」枠を新設し連続視聴可能な編成にする等、コンテンツの充実と、より視聴しやすい編成に努めました。

#### [特別番組]

BS11開局15周年特別番組として、『アートミステリー 国立西洋美術館誕生秘話～モネを救え!～』、数々の宇宙産業を紹介した『宇宙のはなしをしよう!』を3月に放送いたしました。

スポーツジャンルでは、日本ボクシング界再興に向けたドキュメンタリー番組『亀の恩返し～亀田興毅 ボクシング3150（サイコウ）への挑戦～』、女子ソフトボールリーグの開幕節『JDリーグ2023 第1節 ビックカメラ高崎VS日立』の試合及び不定期放送の情報番組『Wow!JDリーグ』を放送いたしました。また、男子プロバスケットボールリーグの年間チャンピオンシップ戦を特集した『Be a booster! B.LEAGUE CHAMPIONSHIP2022-23』を放送し、多くの反響をいただきました。

更に、過去最多全国16の放送局とのコラボレーションを実現した『桜前線2023 全国キャスターリレー!～一度は訪れたい桜スポット～』、(株)京都放送との共同制作番組『京都夜桜生中継2023～歴史薫る春の旅～』を放送し、ローカル局とのコラボレーション施策も実施いたしました。

その他、『SKE48プリマステラのキラキラ大放送』はTwitterでトレンド入りし、話題となりました。

### 【アニメ関連事業】

「ANIME+」枠、「アニメプラス」枠の「BS11ガンダムアワー」、「キッズアニメ∞(むげんだい)」枠(3月で放送終了)では、『テレビアニメ「鬼滅の刃」刀鍛冶の里編』『山田くんとLv999の恋をする』ほか、製作委員会参画作品を含むアニメ関連番組を、毎クール約40タイトル放送しております。

4月に放送300回を迎えたアニメソング番組『Anison Days』は、BS11開局15周年特別イベントとして「Anison Days Festival 2023」を3月に開催し、この模様を5月に4週にわたって番組内でも放送いたしました。また、今年も世界最大級のアニメイベント「AnimeJapan2023」へのブース出展や、とちぎテレビ主催の「とちてれ☆アニメフェスタ」に協賛し、それぞれ声優を招いてトークイベントを実施いたしました。

このほか、エンターテインメント情報番組『アニゲー☆イレブン!』、グループ会社の㈱理論社、㈱国土社の児童書を映像化した読み聞かせ番組『今日のえほん』も、引き続き充実した内容で放送しております。

### 【配信コンテンツ】

当期の重点施策である「コンテンツ力の強化」、「コンテンツの有効活用による価値最大化」、「『非放送分野』の拡大」を目的とし、当社独自の動画配信サイト「BS11+ (プラス)」のサービスメニューのリニューアルと、オリジナルコンテンツの拡充、配信プラットフォームの拡大を行いました。

BS11+では、より多くの方々にBS11のコンテンツをご視聴いただけるよう、ジャンルごとにあった見放題プランを全番組見放題プランに統一し価格を見直しました。オリジナルコンテンツとして、即興テイストのクッキングドラマ『ボクの即興ごはん〜竹財輝之助のひとりキッチン〜 シーズン1』を配信し、大変ご好評いただいております。ドラマコンテンツでは、放送に加え、BS11+にてノーカット版を配信しており、中国時代劇『如意芳霏(よいほうひ)〜夢紡ぐ恋の道〜』をはじめ多くの方にご視聴いただいております。レギュラー番組関連コンテンツでは、『偉人・素顔の履歴書』のアーカイブ配信とともに、後継番組『偉人・敗北からの教訓』の番組収録後のアフタートーク『偉人・敗北からの教訓・こぼれ囁』も配信いたしました。また、4月より『昌和・Mamiの名曲アワー=WE LOVE POPS=』を新たに毎週配信しております。

更に、5月より、昭和の貴重な映像をお届けする『昭和あの日のニュース』のYouTubeチャンネルを新設し、BS11+ではノーカット版の配信を開始いたしました。

BS11公式YouTubeチャンネルでは、社内企画募集で選出された『アドベンチャーワールドのパンダたち』、YouTubeで話題のピアニスト「みやけん」とコラボした『リコリス・リコイル×黒板アート×ピアノ』を配信いたしました。

コラボレーション施策として、㈱文化放送のインターネットラジオ「超!A&G+」との共同制作番組『ワールドダイスターRADIO☆わらじ』を配信し、BS11公式YouTubeチャンネル限定のおまけトークも引き続き配信いたしました。また、グループ会社である㈱国土社の児童書を映像化した『歌で聴く絵本「ようかいむら」シリーズ』は、YouTube内の新機能であるYouTubeポッドキャストへも登録を実施し、子供向けコンテンツとして多くの反響をいただきました。

配信プラットフォームの拡大としては、5月24日より「TVer」での見逃し配信をスタートし、『おやじ京都呑み』、『中山秀征の楽しく1万歩!小京都日和』等の人気レギュラー番組を配信いたしました。U-NEXT(Paravi)、FOD、FANYチャンネル、ビデオマーケット等、外部プラットフォームでの課金配信も引き続き展開いたしました。

### 【その他事業・マルチ展開施策等】

当期の重点施策である「『非放送分野』の拡大」、「セールスメニューの開発強化」を目的とし、様々な取り組みを行っております。

リアルイベント・生配信・アーカイブ配信・特別番組放送とマルチに展開し、前回大好評をいただいた企画の第2弾『貴公子たちの音楽会 Vol.2〜春(スプリング)〜』を実施いたしました。前回に引き続き当日の会場観覧チケットは完売し、配信でも多くのファンの方にご視聴いただきました。

セールス面においては、新たに「BS11営業サイト」を開設し、広告主・広告会社向けにレギュラー番組、特別番組、アニメスポット企画等の情報をより早く、幅広くお届けする体制を整えました。

今後も放送に加え、配信、その他事業を通して幅広いニーズに応えることができるよう、努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,113,706千円（前年同期比0.4%増加）となりました。営業利益は1,616,248千円（前年同期比16.2%減少）、経常利益は1,615,381千円（前年同期比16.3%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,100,375千円（前年同期比15.5%減少）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ217,193千円増加し、24,458,378千円（前連結会計年度末比0.9%増加）となりました。主な要因は、現金及び預金が898,369千円、受取手形及び売掛金が137,240千円とそれぞれ減少したものの、棚卸資産が107,415千円、有形固定資産その他（純額）が1,105,973千円とそれぞれ増加したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ534,043千円減少し、2,137,885千円（前連結会計年度末比20.0%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が251,232千円、流動負債のその他に含めて表示している未払金が158,092千円、未払費用が111,415千円とそれぞれ減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ751,237千円増加し、22,320,492千円（前連結会計年度末比3.5%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益1,100,375千円の計上に伴い744,297千円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期の連結業績予想につきましては、2022年10月7日付の「2022年8月期 決算短信」で公表しました連結業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,456,611	13,558,242
受取手形及び売掛金	2,074,459	1,937,219
棚卸資産	430,350	537,765
その他	122,567	197,415
流動資産合計	17,083,989	16,230,643
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,266,730	2,253,007
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	404,755	1,510,729
有形固定資産合計	6,706,242	7,798,493
無形固定資産	84,219	71,007
投資その他の資産	366,734	358,233
固定資産合計	7,157,195	8,227,735
資産合計	24,241,184	24,458,378
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	625,550	659,411
短期借入金	500,000	530,000
未払法人税等	377,558	126,325
その他	1,045,420	693,530
流動負債合計	2,548,529	2,009,268
固定負債		
退職給付に係る負債	99,007	105,417
その他	24,392	23,199
固定負債合計	123,399	128,617
負債合計	2,671,929	2,137,885
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,186,990
資本剰余金	3,517,726	3,520,780
利益剰余金	13,843,269	14,587,567
自己株式	△143	△143
株主資本合計	21,544,789	22,295,195
新株予約権	24,466	25,297
純資産合計	21,569,255	22,320,492
負債純資産合計	24,241,184	24,458,378

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
売上高	9,076,298	9,113,706
売上原価	4,365,334	4,701,769
売上総利益	4,710,964	4,411,937
販売費及び一般管理費	2,781,514	2,795,689
営業利益	1,929,450	1,616,248
営業外収益		
受取利息	65	72
その他	2,752	2,160
営業外収益合計	2,817	2,232
営業外費用		
支払利息	2,889	3,078
その他	71	20
営業外費用合計	2,961	3,099
経常利益	1,929,306	1,615,381
税金等調整前四半期純利益	1,929,306	1,615,381
法人税、住民税及び事業税	605,573	497,030
法人税等調整額	21,092	17,975
法人税等合計	626,665	515,006
四半期純利益	1,302,640	1,100,375
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,302,640	1,100,375



## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
四半期純利益	1,302,640	1,100,375
四半期包括利益	1,302,640	1,100,375
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,302,640	1,100,375
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

当第3四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度における有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。